

提出日： 2026 年 6 月 23 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	福島 一矩

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	本研究期間中は、組織の持続的な経営の実現に資する管理会計、マネジメント・コントロールのあり方を明らかにすることを目標として主に以下の研究に取り組んだ。 ① 管理会計の利用がもたらす逆機能に関する研究：予算目標の設定、予算目標に対するコミットメントが組織のための非倫理的な行動に及ぼす影響、相対的業績評価が組織逸脱行動に及ぼす影響などを検討した。 ② 組織パフォーマンスに対する管理会計の役割に関する研究：管理会計会担当者の配置と役割の関係がパフォーマンスに及ぼす影響、日本企業における業績測定・評価のコンフィギュレーションの探索、両利きの経営とパフォーマンスの関係などを検討した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	これまでの研究成果のうち、すでに公表されたもの、近日中に公表されるものは以下のとおりである。 ① 管理会計の利用がもたらす逆機能に関する研究 学会報告：「予算目標の特徴と組織のための非倫理的行動の関係」(日本会計研究学会第 84 回大会, 2025 年 8 月), 「予算目標に対するコミットメントと組織のための非倫理的行動」(日本原価計算研究学会第 51 回全国大会, 2025 年 8 月)。論文：「予算目標に対するコミットメントが非倫理的向組織行動に及ぼす影響」(『企業研究』48, 213-230, 2026 年 2 月), 「予算目標の特徴が非倫理的向組織行動に及ぼす影響」(『三田商学研究』近刊)。 ② 組織パフォーマンスに対する管理会計の役割に関する研究 学会報告：「管理会計担当者の配置と役割の適合性に関する研究」(日本会計研究学会第 85 回大会, 2026 年 9 月(予定))。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	管理会計の利用がもたらすさまざまな弊害が明らかにされてきたが、逆機能に関する体系的な議論が十分になされてきたわけではない。そこで、以下の管理会計の逆機能に関する研究を計画している。 ① 予算管理が非倫理的行動の促進・抑制に及ぼす影響に関する研究 これまでは予算目標が組織のための非倫理的行動に及ぼす影響を検討してきた。今後は、予算目標の設定から予算目標の達成状況の評価、管理までの一連の予算管理プロセスにおいて、何が組織のための非倫理的な行動を引き起こす恐れがあるのか、また、組織のための非倫理的な行動を抑制する予算管理のあり方はないのかといった点を体系的に明らかにしていくことを計画している。 ②相対的業績評価の心理的な影響の継続性に関する研究 これまでは相対的業績評価が被評価者の感情に及ぼす影響を検討してきた。今後は、相対的業績評価が被評価者にもたらす心理的な影響の長さ、範囲などを検討することによって、業績評価のデザインに関して考慮すべき点を提示することを計画している。	